

審査結果報告書

平成 29 年 2 月 10 日

主 査 氏 名

狩野 有作



副 査 氏 名

堀江 良一



副 査 氏 名

江島 耕二



副 査 氏 名

名田 中



1. 申請者氏名 : DM13038 横山 真喜

2. 論文テーマ :

CD109, a negative regulator of TGF- β signaling, is a putative risk marker in diffuse large B-cell lymphoma

(CD109 はびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫の予後予測因子である)

3. 論文審査結果 :

びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫 (DLBCL) は、成人の非ホジキンリンパ腫で高頻度 (40~50%) を示す悪性リンパ腫である。標準治療薬としてリツキシマブを導入後、治療成績は改善傾向を示している。しかし、再発および難治例も多く (約 40%)、これらを層別化できる予後因子が求められている。今回、初発 DLBCL と診断された R-CHOP 療法が施行された 84 症例を対象として、悪性リンパ腫の予後予測因子である Revised-IPI (R-IPI) スコアに DLBCL の病理組織における CD109 発現を組み合わせる解析の結果、DLBCL に関してより詳細なリスク評価が可能となることを明らかにした。さらに、B 細胞腫瘍細胞株 (B リンパ芽球性リンパ腫/白血病細胞) である (Nalm6) での CD109 ノックダウン細胞における TGF- β シグナルへの影響を解析し、TGF- β シグナル下流に存在する p-Smad2 が TGF- β 1 刺激後 6~8 時間後まで持続して Nalm6 において CD109 が TGF- β を負に制御することを証明した。

以上より、本論文は DLBCL における CD109 の役割を詳細に解明しており、今後の臨床応用に非常に期待でき、学位論文として価値あるものと考えます。